

ASBJ Newsletter



目次

1. 企業会計基準委員会の概要（第222回～第224回）
2. IASB及びFASFに対するASBJのコメント(2011年4月1日～2011年5月31日)
3. IFRS財団湯浅一生氏をIFRS解釈指針委員会委員に指名
4. 第5回IFRSリージョナル・ポリシー・フォーラムに西川委員長が出席
5. アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ(AOSSG)が中間会議を開催
6. IFRS財団モニタリング・ボード、ガバナンス改革円卓会議を東京で開催
7. IASBとの第13回共同会議を東京で開催、東京合意の達成状況と今後の緊密な協力にむけた計画を発表
8. IFRS財団戦略レビューに関する円卓会議を東京で開催
9. FASF萩原理事長、島崎IFRS財団評議員、加藤ASBJ副委員長が中国会計首脳を訪問
10. FASF単体財務諸表に関する検討会議の報告書を公表
11. FASF理事会、評議員会を開催
12. FASFセミナー「四半期報告書の作成上の留意点(平成23年6月第1四半期提出用)」を開催
13. 中国経済連合会とASBJ/FASFの意見交換会を実施
14. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

1. 企業会計基準委員会の概要（第222回～第224回）

1) [第222回（2011年4月14日開催）](#)

- a. リース会計専門委員会における検討状況
- b. 収益認識専門委員会における検討状況
- c. 金融商品専門委員会における検討状況（IASB相殺対応）

- a. 「リース会計に関する論点の整理」に寄せられたコメントの紹介が行われました。
作成者、利用者及び監査人から多くのコメントが寄せられており、当該会計基準への関心が高いことがわかります。
論点整理では、借手の会計処理について、単一の使用权モデルが提案されていましたが、利用者からは財務報告の改善につながると賛成の意見が多いものの、作成者を中心に多様なリース取引に1つの会計モデルを適用することに対する懸念も示されています。
また、貸手の会計処理について、履行義務アプローチと認識中止アプローチからなる複合モデルが提案されていましたが、これに対しては、賛成の意見が多く、さらに詳細なガイダンスを求める意見も見られます。
- b. 「顧客との契約から生じる収益に関する論点の整理」に寄せられたコメントの紹介が行われました。
現行の実務との整合性の保持を求める意見が多く見られました。
- c. 資産と負債の相殺に関する IASB/FASB の公開草案の概要説明とそのコメント対応に関する検討が行われました。

2) [第223回（2011年4月28日開催）](#)

- a. 金融商品専門委員会における検討状況（公正価値測定）
- b. 無形資産に関する検討
- c. 企業結合専門委員会における検討状況

- a. 公正価値測定・開示に関する基準の検討が行われていますが、「最有効使用」の論点についての検討が行われました。

現在、IASBとFASBでは、最有効使用が現在の使用と異なる場合に、その旨及びその理由の開示を要求することを考えており、さらには、公正価値で測定されているもののみならず、公正価値が開示されているものに対しても当該開示を求めることが暫定的に決定されています。委員会では、我が国にもこの考え方を取り入れるかが検討されています。

- b. 単体財務諸表に関する検討会議からの報告が公表されたことを受けて、開発費の資産計上についての検討が開始されました。

検討再開に先立って、開発費資産計上の会計上の考え方、コンバージェンスの観点からの在り方、連結と単体の取扱いについて、各委員からの意見聴取が行われました。

資産計上、連結先行ともに委員の意見は、割れています。

- c. 開発費と同様に、単体財務諸表検討会議からの報告が公表されたことを受けて、のれんの償却についての検討が開始されました。

現在検討中の無形資産の包括的な会計基準と減損テストにより償却にこだわる理由がないという意見と、自己創設のれんの発生、収益と費用の対応の観点から従来通り償却すべきという意見に分かれています。

3) [第 224 回 \(2011 年 5 月 19 日開催\)](#)

- a. 企業結合専門委員会における検討状況
- b. 無形資産に関する検討
- c. 金融商品専門委員会における検討状況 (分類・測定)

- a. 前回に引き続き、のれんの償却についての検討が行われました。
- 前回同様、委員からの意見聴取に時間を割き、具体的な方向はまだ示されておらず、償却・非償却で意見は分かれています。
- b. 前回に引き続き、開発費の資産計上についての検討が行われました。
- 前回の検討では、仮に連結ベースで資産計上をすることとした場合の単体財務諸表の取扱いについては、当面の間、連結先行することを支持する意見が大部分でした。
- これを受けて、今回は、連結先行とした場合の単体財務諸表について、開発費資産計上の選択適用を認めるか、単体での追加開示の必要性、連結財務諸表を作成していない会社への対応といった論点が追加論点として新たに検討されました。
- c. 2010 年 8 月に公表された「金融商品会計基準 (金融資産の分類及び測定) の見直しに関する検討状況の整理」に対するコメントの紹介と、対応の方向性についての報告が行われました。

2. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2011 年 4 月 1 日～2011 年 5 月 31 日)

- 1) [IASB 補足文書「金融商品：減損」に対するコメント](#)を提出 (2011 年 4 月 1 日)

- 2) [FASB デイスカッションペーパー「ヘッジ会計」に対するコメント](#)を提出 (2011 年 4 月 21 日)

- 3) [IASB 公開草案「金融資産と金融負債の相殺」に対するコメント](#)を提出 (2011 年 4 月 28 日)

3. IFRS 財団 [湯浅一生氏を IFRS 解釈指針委員会委員に指名](#)

国際会計基準審議会 (IASB) の監督機関である国際財務報告基準財団 (IFRS 財団) の評議員会は、2011 年 6 月 3 日、富士通株式会社財務経理本部の湯浅一生氏を国際財務報告基準解釈指針委員会 (IFRS 解釈指針委員会) の委員に指名することを発表しました。当初の任期は前任の鶯地隆継 IASB 次期理事の残りの任期期間となる 2011 年 7 月 1 日からの 1 年間となっています。

4. 第 5 回 IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラムに西川委員長が出席

2011 年 5 月 23 日と 24 日、インドネシアのバリ島で第 5 回 IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラムが開催されました。今回のフォーラムでは、アジア・オセアニア地域における IFRS の採用と収斂に関する課題や機会がテーマとされ、会計基準設定主体、規制当局や監査法人等が意見を交わしました。

インドネシア会計士協会 (IAI) が主催した今回のフォーラムには、21 カ国から約 300 名の参加者が集まりました。IASB からは Tweedie 議長、山田理事及び McGregor 理事が、また、IFRS 財団からは Lucy 評議員が参加しました。ASBJ/FASF からは、西川委員長、加藤副

委員長及びスタッフ 2 名が参加しました。

インドネシアの Boediono 副大統領等のスピーチでフォーラムが幕を開け、IASB の山田理事と McGregor 理事から、収益認識、金融商品、リース会計や保険契約に関するプロジェクトの進捗状況について説明が行われました。

その後、IFRS の採用と収斂に関する課題や機会に係る会計基準設定主体の役割について、プレゼンテーションが行われました。西川 ASBJ 委員長は ASBJ が直面する現状を説明し、その他、IASB の Tweedie 議長、インドネシア、韓国、及びインドの会計基準設定主体からもそれぞれに関する説明がありました。プレゼンテーション後には、各国の課題や今後の IFRS 適用に際する準備や能力強化の重要性に関し議論が交わされました。

フォーラムの 2 日目には、4 つのパネルセッションと IFRS 財団の戦略レビューに関する説明が行われました。1 つ目のパネルセッションでは、規制当局の観点から見た IFRS の適用状況に関する説明があり、日本からは、金融庁 長岡国際会計調整室長が、IFRS 適用にかかる課題について説明を行いました。その他のセッションでは、民間企業、税務当局、及び監査法人等から見た IFRS 適用にかかる課題と機会についてプレゼンテーションが行われました。

最後に、IFRS 財団の Lucy 評議員と Seidenstein 最高執行責任者から、当該財団の戦略レビューについて現在の進捗状況に関する説明がされ、フォーラム参加者と質疑応答及び意見交換が行われました。

今回のフォーラムでは、IFRS の採用・収斂を引き続き目指し、高品質な会計基準設定の達成を目標とする点が確認されました。また、アジア・オセアニア地域内の

諸国が連携し、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ (AOSSG) を通じて IASB に意見を発信していくことの重要性が改めて確認されました。

次回の会合は、2012 年にマレーシアで開催される予定です。

5. アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ (AOSSG) が中間会議を開催

2011 年 5 月 25 日、インドネシアのバリ島で開催された第 5 回 IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラムの翌日に、AOSSG の中間会議が開催されました。この会議には、13 カ国から 30 名のメンバーが参加したほか、IASB の Tweedie 議長、山田理事及び McGregor 理事も参加しました。ASBJ/FASF からは、西川委員長、加藤副委員長及びスタッフ 2 名が参加しました。

午前の会議では、IASB よりプロジェクトの進捗状況に関する説明があり、IASB メンバーと AOSSG メンバーの間で、今後の AOSSG と IASB との連携のあり方その他、金融商品、リース会計、保険契約、収益認識、イスラム金融や農業の分野に関し、意見交換が行われました。その後、2011 年 6 月末で任期が終了する IASB の議長と両理事に対し、過去 10 年に亘る会計基準設定活動への貢献に対する感謝の印として、AOSSG から記念品が贈呈されました。

午後には、AOSSG メンバーのみによる会議が行われ、6 月に発行を予定している [AOSSG の活動のあり方に関する文書 \(Vision Paper\)](#)、IFRS 財団の戦略レビューへのコメント内容の検討、今後 AOSSG で取り上げるプロジェクトや、本年 11 月にメルボルンで開催予定の年次総

会の内容等について、議論が交わされました。次回会合を本年 9 月に開催することに合意し、中間会議は終了しました。

6. IFRS 財団モニタリング・ボード、ガバナンス改革円卓会議を東京で開催

IFRS 財団モニタリング・ボード (MB) は、2011 年 2 月 7 日に公表した「IFRS 財団のガバナンス改革に関する市中協議文書」のパブリックコメント募集期間中に、世界中の市場関係者が MB によるガバナンス改革プロジェクトにより関与出来るよう、アジア (日本、及びマレーシア)、欧州、米州の 4 箇所において公開円卓会議を開催しています。

このうち日本での公開円卓会議は 3 月 24 日に FASB 会議室にてモニタリング・ボードのワーキング・グループ議長となっている金融庁の河野総括審議官の主催で開催されました。公開円卓会議直前の 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響もあり、当初参加が予定されていた、中国、韓国、台湾等の国々からの出席者は揃って欠席となり、日本の利用者、作成者、監査人、基準設定主体等から参加者 20 人のみの参加となっています。今回の東京での公開円卓会議では、参加者よりそれぞれの立場から 17 の質問に対する意見表明がなされました。

FASB のコメントレターは IFRS 財団の現行の 3 層構造のガバナンス体制を基本的に支持し、MB の大幅、急激な規模、役割の拡大には同意しないことを骨子に作成しています。今回の FASB の提出したコメントレターは IOSCO の以下のホームページにて見ることができます。

http://www.iosco.org/monitoring_board/

7. IASB との第 13 回共同会議を東京で開催、東京合意の達成状況と今後の緊密な協力にむけた計画を発表

ASBJ と IASB は、日本における IFRS とのコンバージェンスへの取組みを促進し、IFRS 導入についての準備状況を検討するため、第 13 回目の共同会議が西川委員長、Tweedie 議長主導の下、6 月 6 日及び 7 日の 2 日にわたり、東京で行われました。

今回の会議においては、IASB と米国財務会計基準審議会 (FASB) の覚書 (MoU) における収益認識、リース、金融商品という残りのプロジェクトに加え、保険契約についても意見交換を行いました。また、日本での IFRS の任意適用に関連して、日本で生じている様々な IFRS の解釈上及び実務上の検討課題についても意見交換を行いました。

西川委員長と Tweedie 議長は、日本の会計基準と IFRS とのコンバージェンスに関する両者の取組みは、今後日本において考え得る IFRS の適用の検討の道筋において重要なステップであったとの考えを示し、さらに緊密な関係を築き上げることが必要であると合意しました。そして、2007 年の東京合意の達成状況の確認と今後のより緊密な協力に向け、[「東京合意における達成状況とより緊密な協力のための計画を発表」](#)と題するプレスリリースを公表しています。

なお、Tweedie 議長、McGregor 理事及び山田辰己理事はこの 6 月末で退任されることから、今回の会議には、Mackintosh 次期副議長、鶯地隆継次期理事も参加し、ASBJ と IASB との間の緊密な関係の維持が図られました。

8. IFRS 財団戦略レビューに関する円卓会議を東京で開催

設立後の最初の10年を成功裡に終えたIFRS財団の次の10年の戦略を協議しているIFRS財団評議員会は、戦略レビューに関する2月締切りのパブリックコメントを纏めた報告書を4月28日に公表しています。

IFRS財団はこの報告書に基づく円卓会議を世界4箇所で開催することとなり、6月7日にFASFの会議室にて東京での円卓会議が開催され、IFRS財団のホームページを通じて全世界に同時配信されました。

今回の円卓会議は、参加者多数のため2つのセッションに分けて開催され、シンガポールからの参加者を含む各分野からの市場関係者が合計24人参加し、様々な意見をIFRS財団に伝えることとなりました。IFRS財団からは、藤沼評議員会副議長、Glauber評議員会副議長、島崎評議員、Lucy評議員、Mackintosh次期IASB副議長、Seidenstein最高執行責任者の各氏が参加され熱心な議論が展開されています。

円卓会議はこの後、香港、ニューヨーク、ロンドン開催され、7月25日締め切りの本件に関するパブリックコメントを踏まえ、同時に進行中のIFRS財団モニタリング・ボードのガバナンス改革の意見との調整を図り公表される予定となっています。

9 FASF 萩原理事長、島崎 IFRS 財団評議員と加藤 ASBJ 副委員長とともに中国会計首脳を訪問

FASF/萩原理事長は、島崎 IFRS 財団評議員、加藤 ASBJ 副委員長と共に6月1日-2日の日程で中国/北京を訪問し、中国/財政部/王軍副大臣等、同国の会計行政、

及び会計実務の首脳と面談しました。

今回の訪問の目的は、①サテライトオフィス東京設置決定に伴う今後の活用法の協議、②重要性を増しているアジア・オセアニア地区を主導する日中の連携強化、③日中両国のIFRS導入を巡る最近の動向の確認、等でありましたが、加えて萩原理事長から東日本大震災での温家宝首相来日等中国側の支援に対し感謝の辞を述べられると、中国からは日本の復興を信ずるとの熱いメッセージが伝えられました。

中国/財政部以外に、中国公認会計士協会、Deloitte Touche Tohmatsuを訪問しそのTopとも意見交換を行い、会計実務面での種々の状況の確認をすると共にIFRSとのFull Convergenceを目指す中国国内の動きに就いて理解を深めることが出来ました。

今回の訪問で中国側は、今後のIFRS開発におけるアジア・オセアニア地区の一層の役割増大に期待を示し、その観点からサテライトオフィス、AOSSGの動きに強い関心を示し、これらに対する中国の全面的な支援、協力の約束が述べられ、今後の一層の日中関係強化の必要性が述べられました。

10 FASF 単体財務諸表に関する検討会議の報告書を公表

FASF内に設置された[単体財務諸表に関する検討会議](#)は、2011年4月28日に「[単体財務諸表に関する検討会議](#)」報告書(平成23年4月)」を公表しました。

単体財務諸表に関する検討会議は、企業会計審議会において示されている連結先行の考え方に関連して、ASBJの独立性を確保しつつ、ASBJの基準策定機能の強化を図るために、単体財務諸表のコンバージェンスを当面どのように取り扱うべきか

について、個々の会計基準ごとに、対応の方向性についての考え方を集約することを目的として設置されたものです。



報告書では、開発費、のれん、退職給付（ステップ1）及び包括利益について、単体財務諸表に関する方向性の考え方を報告しており、今後、ASBJは、この報告を十分斟酌し、これらの会計基準の設定の最終判断を行うこととしています。

11. FASF 理事会、評議員会を開催

2011年5月26日に当財団の理事会を開催いたしました。

理事会では、「第11期事業報告書（案）」、「第11期決算（案）」、並びに改選期を迎えた「基準諮問会議委員及び議長の選任」等の審議が行われ、基準諮問会議の新委員長には、住友化学（株）の野崎邦夫常務執行役員が就任しました（基準諮問会議委員の一覧は以下を参照）。

https://www.asb.or.jp/asb/asb_j/standards_advisory/member/

また、同年6月3日には評議員会を開催いたしました。

評議員会では、「評議員の選退任」及び改選期を迎えた「理事及び監事の選任」等の審議が行われました。選退任の状況は下記のとおりです。（敬称略、※下線付は新

任）

1. 評議員の退任及び選任

(1) 退任（退任日：平成23年6月3日）

| | |
|-------|----------------------|
| 島崎 憲明 | 住友商事(株) 特別顧問 |
| 築館 勝利 | 東京電力(株) 常任監査役・監査役会会長 |

(2) 選任（就任日：平成23年6月4日）

| | |
|-------|-------------------|
| 岡田 譲治 | 三井物産(株) 常務執行役員 |
| 西村 義明 | 東海ゴム工業(株) 代表取締役社長 |

2. 理事の改選

(1) 退任（退任日：平成23年6月3日）

| | |
|-------|------------------|
| 田中 稔三 | キヤノン(株) 代表取締役副社長 |
|-------|------------------|

(2) 選任（就任日：平成23年6月4日）

| | |
|---------|-----------------------------|
| 池上 玄 | 日本公認会計士協会 副会長 |
| 伊地知 日出海 | 日本証券業協会 常務執行役員 |
| 岩熊 博之 | 株東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行役員専務 |
| 岩原 紳作 | 東京大学大学院法学政治学研究科 教授 |
| 内山 英世 | 有限責任あずさ監査法人 理事長 |
| 大塚 宗春 | 早稲田大学商学大学院 教授 |
| 大場 昭義 | 東京海上アセットマネジメント投信(株) 代表取締役社長 |
| 河本 雄二郎 | 三菱重工業(株) 代表取締役常務執行役員 |
| 北村 敬子 | 中央大学商学部 教授 |

| | |
|--------|--------------------------|
| 久保田 政一 | (社)日本経済団体連合会 専務理事 |
| 小泉 宇幸 | (社)生命保険協会 副会長 |
| 島崎 憲明 | 住友商事(株) 特別顧問 |
| 高橋 秀夫 | 公益財団法人財務会計基準 機構 事務局長 |
| 谷口 進一 | 新日本製鐵(株) 代表取締役 副社長 |
| 徳賀 芳弘 | 京都大学経営管理大学院 教授 |
| 萩原 敏孝 | (株)小松製作所 相談役・特別 顧問 |
| 半田 勝男 | (社)日本損害保険協会 専 務理事 |
| 宮城 勉 | 日本商工会議所 常務理事 |
| 山崎 彰三 | 日本公認会計士協会 会長 |
| 和田 耕志 | 一般社団法人全国銀行協会 副会長兼専務理事 |

3. 監事の改選

選任（就任日：平成23年6月4日）

| | |
|-------|-------------------|
| 小見山 満 | 日本公認会計士協会 副会 長 |
| 武井 優 | 東京電力(株) 取締役副社長 |

12. FASF セミナー「四半期報告書の作成上の留意点(平成23年6月第1四半期提出用)」を開催



FASFでは、6月6日より東京（3回）、大阪、名古屋、福岡、札幌、仙台、金沢、広島、高松の全国9都市にて11回にお

たって「四半期報告書作成上の留意点（平成23年6月第1四半期提出用）」のセミナーを開催しました。当セミナーでは、併せてASBJの担当者から「企業会計基準委員会の活動状況」についての説明が行われました。

セミナーの参加者は、延べ約4,000人と関係者の関心の高さを窺わせる、盛況なものとなっています。

13. 中国経済連合会とASBJ/FASFの意見交換会を実施

ASBJ/FASFでは、地方におけるFASF会員企業、会計関係者とのコミュニケーションの強化を目的とした意見交換会を実施しています。



特に、IASBによる最新の基準開発の動向やその背景、ASBJによる基準開発の経緯や内容、今後の展望など、ASBJのホームページや新聞記事、雑誌記事などだけでは伝わりにくい最新の情報を直接お伝えし、またご要望を承ることは、国内の会計基準の開発におけるASBJの役割に対する理解を深め、IFRS導入に向けた環境整備を我が国全体でフォローしていく意味でも有意義なことと考えています。

今回は、6月10日に広島で中国経済連合会の120名を超える皆様と意見交換会を開催いたしました。

意見交換会では、冒頭、FASF に対する日頃の協力への謝辞と、運営への一層の協力をお願いしたあと、野村 ASBJ 常勤委員より、ASBJ の活動状況について説明しました。

今後も継続して、このような取組みを実施していきたいと考えています。

14. お知らせ

1) 刊行物のご案内

- ① 機関誌「季刊 会計基準」第 33 号
(2011 年 6 月 15 日刊行)

【主な内容】

- ✓ 特集：IFRS 財団サテライトオフィスへの期待
 - 「東京サテライトオフィスと日本への期待」…島崎憲明 IFRS 財団トラスティ―/FASF 評議員他
- ✓ Accounting Square：“IASB 理事退任に当たって”…山田辰己 IASB 理事
- ✓ Chairman’s Voice：“東京合意後の基準開発～東日本大震災の影響の中で～”…西川郁生 ASBJ 委員長
- ✓ トピックス：“単体財務諸表に関する検討会議”の報告書の概要

- ② 四半期報告書の作成要領（平成 23 年 6 月第 1 四半期提出用）（6 月中旬より順次発送予定）

本書では、平成 23 年 6 月第 1 四半期提出用の四半期報告書を作成する上での各項目の記載事例や根拠条文等のほか、作成上の留意点を掲載しています。

※ご購入は[こちら](#)。

※第 30 号より、FASF 会員の皆様は、季刊会計基準に掲載される記事が[ホー](#)

[ムページ\(会員専用サイト\)よりご覧になることができます](#)。どうぞご利用ください。

2) ASBJ Web セミナーのご案内

ASBJ/FASF では、FASF 会員の皆様が ASBJ の開発する会計基準や ASBJ/FASF の活動をより分かりやすく効率的に理解していただくために、ASBJ Web セミナーをホームページ(会員専用サイト)で提供しています。

最近では、3 月 25 日に公表された四半期会計基準等の改正についての解説を新しいコンテンツとして掲載していますので会員の皆様はどうぞご利用ください。

3) ASBJ オープン・セミナーのご案内

FASF では、会員の皆様へ向けて、内外の会計基準の動向等をタイムリーにお知らせするため、昨年より ASBJ オープン・セミナーを開催しています。

本年度も 7 月に以下の日程で開催を予定しています(参加は[ASBJ ホームページから登録](#)できます)。

| 回数 | 日時 | 場所 | 時間 |
|-------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 第 1 回 | 平成 23 年 7 月 19 日 (火) | メルパルクホール(東京) | 午後を 予定 (3 時間 程度) |
| 第 2 回 | 平成 23 年 7 月 21 日 (木) | ダイテックサカエ(名古屋) | |
| 第 3 回 | 平成 23 年 7 月 22 日 (金) | TKP 大阪梅田 ビジネスセンター(大阪) | |
| 第 4 回 | 平成 23 年 | アクロス福岡 | |

| | | | |
|-----|-----------------------|-----------------|--|
| | 7月26日 (火) | (福岡) | |
| 第5回 | 平成23年 8月23日 (火) | 札幌証券取引 所(札幌) | |

“ASBJ Newsletter” (第21号)

2011年6月20日発行

発行：企業会計基準委員会／

公益財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20階

編集・発行人：下村昌作

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：planning@asb.or.jp

Fax：03-5510-2712